

1 総 括

1-1 業務の概要

鹿児島県工業技術センターは、県内企業の技術力向上を支援する県内唯一の工業系公設試験研究機関である。本県における「工業技術の拠りどころ」として、県内産業の振興を図るため、工業技術に関する試験研究、調査、指導及び研修を行っている。技術支援と研究開発を基本業務とし、その業務運営にあたっては、「企業ニーズに基づく技術支援」、「技術シーズの橋渡しによる県内産業の振興」、「多様な連携によるものづくり支援」の3つを業務の柱として県内企業の活動を支援することを基本方針とする中期業務計画に基づき、業務を計画的に実施している。令和7年度に行った主な業務は次のとおりである。

- (1) 試験研究業務では、地域資源の高度利用、生産・加工システム開発、バイオ・食品開発、環境・生活・デザイン技術開発の各分野に関する主要研究12テーマ、基盤研究として6テーマを実施した。また、企業や大学等との共同研究12テーマと公募提案型研究を含む受託研究15テーマを実施した。
- (2) 技術支援業務では、企業活動に伴う様々な技術課題の解決を図るため、技術相談・指導、依頼分析・試験等、設備使用（設備・機器の利用開放）を実施し、工業技術に関する講習会・研修会を開催した。
- (3) 人材育成では、企業の技術者や研究者等で構成する各種研究会を運営し、研修生等として企業の技術者等を申請により受け入れる技術指導と、大学等からの申請による学生指導を実施した。
- (4) 企業への業務紹介による利用促進と業界・企業ニーズの収集・把握を目的として、企業訪問を実施した。

1-2 組織と業務

庶 務 部

- (1) 庶務一般に関すること。
- (2) 他部の所管に属しないこと。

企画支援部

- (1) 試験研究及び技術指導の企画及び総合調整に関すること。
- (2) 工業技術に関する情報の調査及び提供に関すること。
- (3) 国、地方公共団体、大学、企業等との連絡調整に関すること。
- (4) 工業デザイン及び工芸品の開発研究、調査及び技術指導に関すること。
- (5) 工業デザイン及び工芸品に関し、依頼に応じて行う分析及び試験に関すること。

食 品 ・ 化 学 部

- (1) 食品工業、化学工業、環境工業及び繊維工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 食品工業、化学工業、環境工業及び繊維工業に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

生 産 技 術 部

- (1) 機械工業、電子工業及び金属工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 機械工業、電子工業及び金属工業に関し、依頼に応じて行う分析、試験、検査測定及び加工に関すること。

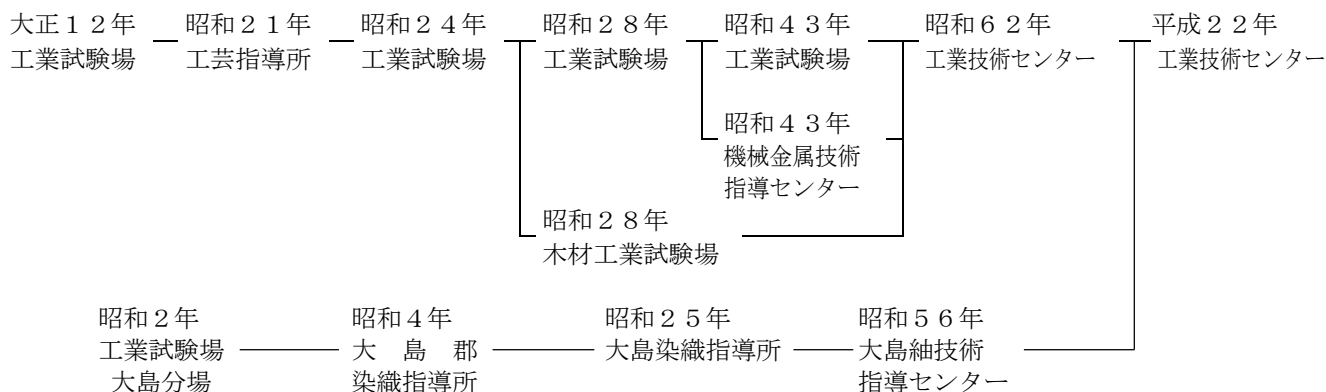
地 域 資 源 部

- (1) 木材、竹材等の地域資源の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 木材、竹材等の地域資源に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。
- (3) シラスの試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (4) シラスに関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

(シ ラ ス 研 究 開 発 室)

地域資源部の項の第3号及び第4号に掲げる事務を分掌する。

1-3 沿革

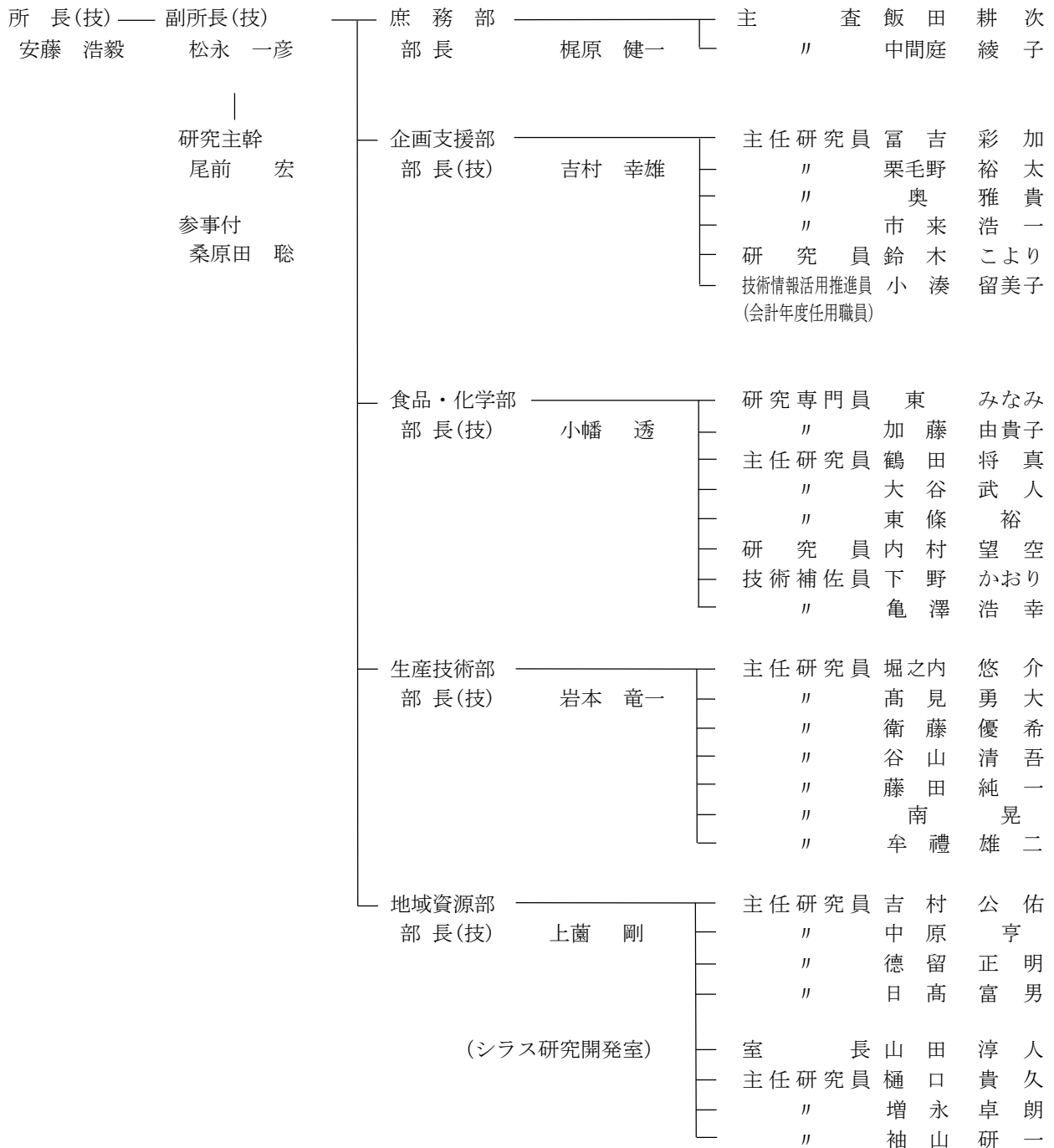


- 大正 12年 4月 鹿児島市高麗町に工業試験場を設立し、染色、機織の2部を設置
- 昭和 2年 4月 工業試験場大島分場を設置し、庶務、図案、原料、染織の4部で発足
- 昭和 4年 6月 鹿児島市原良町に移転
原料糸検査、醸造、玉糸製糸、撚糸、図案の各部を増設
- 昭和 4年 11月 工業試験場大島分場を大島郡染織指導所と改称し、庶務、原料、染織、図案の4部に改編
- 昭和 15年 4月 窯業部を増設
- 昭和 17年 1月 木工、化学部を増設
- 昭和 21年 4月 工業試験場に木工養成所を併設
- 昭和 21年 12月 工芸指導所と改称し、庶務、化学、窯業及び工芸振興の4部に改編
- 昭和 23年 1月 竹工部を増設
- 昭和 24年 4月 工業試験場と改称し、庶務、化学、及び工芸（木工、竹工、窯業）に改編
- 昭和 25年 6月 大島郡染織指導所を大島染織指導所と改称
- 昭和 26年 4月 発酵工業部を新設
- 昭和 27年 4月 工芸部より木工係、竹工係を分離して木竹工部を新設、また揖宿郡指宿町（現 指宿市）に指宿分場を設置
大島染織指導所は琉球政府経済局の所管へ
- 昭和 28年 4月 木竹工部と木工養成所を工業試験場より分離して木材工業試験場を設置
- 昭和 28年 12月 奄美群島が日本へ復帰、鹿児島県大島染織指導所へ
- 昭和 34年 11月 鹿児島市武町に移転
- 昭和 38年 6月 指宿分場を廃止
- 昭和 39年 4月 工芸部を窯業部に改め、化学部に機械金属班を設置
- 昭和 43年 2月 工業試験場の新庁舎竣工
- 昭和 43年 8月 機械金属班を分離して鹿児島市宇宿町に機械金属技術指導センターを設立
- 昭和 48年 3月 鹿児島市東開町に木材工業試験場を移転
- 昭和 56年 4月 大島染織指導所を大島紬技術指導センターと改称するとともに総務課、機織研究室、図案研究室、染色化学研究室の1課、3室体制とする。
- 昭和 62年 12月 工業試験場、機械金属技術指導センター及び木材工業試験場を再編・統合し、現住所に工業技術センターを設立、庶務、企画情報（室）、デザイン開発（室）、食品工業、化学、窯業、機械金属、電子、木材工業の7部2室に改編
- 平成 8年 4月 組織改編により庶務、企画情報、デザイン・工芸、食品工業、化学、素材開発、機械技術、電子、木材工業の9部制発足
- 平成 9年 3月 知的所有権センター開所
- 平成 9年 12月 システム技術開発センター開所
- 平成 10年 7月 R&D支援センター開所
- 平成 13年 4月 化学部を化学・環境部に改編
- 平成 22年 4月 大島紬技術指導センターを統合し、大島紬部を設置
- 平成 23年 4月 組織改編により、庶務部、企画支援部、食品・化学部、生産技術部、地域資源部、シラス研究開発室、大島紬部の6部1室に改編
- 平成 26年 4月 大島紬部を廃止、企画支援部奄美市駐在とし、5部1室に改編
- 平成 29年 3月 企画支援部奄美市駐在を廃止
- 令和 4年 3月 電磁環境測定棟竣工

1-4 機 構

1-4-1 組織と職員配置

(令和7年4月1日現在)



1-4-2 職員現況表

(令和7年4月1日現在)

区分	事務職	技術職	現業職	計	非常勤職員	備考
庶務部	3	4		7		所長、副所長、研究主幹、 参事付を含む
企画支援部		6		6	1	
食品・化学部		7	2	9		
生産技術部		8		8		
地域資源部		5		5		
シラス研究開発室		4		4		
計	3	34	2	39	1	

1-4-3 人事異動

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

発令年月日	氏名	新任	旧任	備考
R 7. 4. 1	松永 一彦	副所長	商工労働水産部参事	転入
	桑原田 聡	参事付	商工労働水産部参事付 (かごしま産業支援センター)	
	栗毛野裕太	企画支援部主任研究員	産業立地課技術主査	
	吉村 公佑	地域資源部主任研究員	森林経営課技術主査	
	安藤 義則	商工労働水産部参事	企画支援部長	転出
	松田 豪彦	商工労働水産部参事付 (かごしま産業支援センター)	生産技術部研究専門員	再任用
	廣岡 侑磨	産業立地課技術主査	食品・化学部研究員	
	袖山 研一	シラス研究開発室主任研究員	研究主幹 (シラス研究開発担当)	
	南 晃	生産技術部主任研究員	研究主幹 (生産技術、地域資源担当)	
	牟禮 雄二	生産技術部主任研究員	研究主幹 (生産技術、食品・化学担当)	
亀澤 浩幸	食品・化学部技術補佐員	主任技術補佐員		
R 7. 6. 30	桑原田 聡		参事付	退職
R 8. 3. 31	市来 浩一		企画支援部主任研究員	
	南 晃		生産技術部主任研究員	

1-5 規 模

1-5-1 土地・建物

土地面積 50,256.05 m²
 建物延べ面積 16,850.28 m²

区 分	面積 (単位m ²)	内		訳 考
		階 別	面積(単位m ²)	
管 理 研 究 棟 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 造 地 下 1 階 地 上 3 階	9,790.29	地階	911.49	機械室、中央監視盤室 他
		1階	2,884.14	庶務部、企画支援部、会議室 研究員室、ショールーム 他
		2階	3,097.77	食品・化学部、生産技術部 シラス研究開発室、機器分析室
		3階	2,540.82	企画支援部、生産技術部、地域資源部 R&D支援センター
		棟屋	356.07	機械室
実 験 棟 鉄 骨 造 平 屋 建	4,789.54	1階	656.10	食品・化学部
		1階	951.35	生産技術部、シラス研究開発室
		1階	1,640.25	生産技術部
		1階	1,541.84	企画支援部、地域資源部
シ ス テ ム 技 術 開 発 セ ン タ ー 木 造 (一 部 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 造) 平 屋 建	1,058.51	1階	1,058.51	産学官共同研究室 実験シミュレーション室 制御測定室、試作研究室
電 磁 環 境 測 定 棟 木造平屋建	270.11	1階	270.11	電波暗室、EMC測定室、シールド室
そ の 他 付 属 棟	941.83		941.83	浄化槽機械室、車庫 他

1-5-2 配置図



1-6 決算

1-6-1 歳入

(単位：円)

款	項	目	収入額	備考
使用料及び手数料	使用料	商工使用料	8,419,572	うち設備使用料8,368,600
		商工手数料	5,583,450	
		小計	14,003,022	
財産収入	財産売払収入	物品売払収入	0	
		生産物売払収入	571,480	
		小計	571,480	
諸収入	雑収入	受託事業収入	16,285,854	
		その他収入	178,767	
		小計	16,464,621	
合計			31,039,123	(工技センター受入分のみ)

1-6-2 歳出

(単位：円)

款	項	目	支出額	備考
総務費	企画費	企画総務費	12,158,756	総合政策課
		小計	12,158,756	
農林水産業費	林業費	林業振興指導費	9,880	森林経営課
		小計	9,880	
商工費	商業費	商業総務費	3,288,029	商工政策課
		工鉱業費	中小企業振興費	83,228
	工業技術センター費		180,553,063	産業立地課(繰越含む)
	小計	183,924,320		
合計			196,092,956	(工技センター執行分のみ)

1-6-3 補助事業等

(単位：千円)

補助事業等の名称	事業名	事業費	補助率	補助額	交付決定日
令和7年度プロジェクト調査 (日本酒造組合中央会)	芋焼酎の品質向上に貢献する製造技術の 開発	900	1/1	900	R7. 4. 8
令和7年度経済産業省成長型中 小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech 事業)	チップレットデバイス組み立て工程で発 生する小容量放電の放電発生位置の特定 技術の開発	5,720	1/1	5,720	R7. 8. 14
令和7年度経済産業省成長型中 小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech 事業)	シルクナノファイバー配合の環境配慮型 日焼け止め製剤の開発	2,038	1/1	2,038	R7. 9. 4

1-6-4 検査・監査等

種 別	実施年月日	対 象 期 間	実 施 者 職・氏 名	備 考
職員監査	令和7年10月15日	令和6年度	監査委員事務局 監査第二課 別府 久美、山口 和利 政 亜紗美	
委員監査	令和8年1月9日	令和6年度	監査委員 大菌 豊 ふくし山 ノブスケ 監査委員事務局 監査第二課 平田 小百合	

1-7 会議等への参加

(件数)

項 目	部 名	庶 [※] 務部	企画支援部	食品・化学部	生産技術部	地域資源部	シラス研究開発室	合 計
試験研究機関連絡会議		4	5	8	5	4	4	30
学 会		0	0	4	0	2	2	8
研 究 会 ・ 講 習 会		10	2	18	0	14	2	46
そ の 他		8	2	6	3	1	0	20

※ 庶務部の件数は所長、副所長、研究主幹を含む。

1-8 設 備

令和7年度に整備した機器（重要物品）は、以下のとおりである（5機種）。

部 名	機 器 名	型 式	メーカ名	備 考
生産技術部	試料静止型 冷熱衝撃装置	TSA-103ES-W	エスペック(株)	JKA補
〃	デジタルオシロスコープ	T3DS04108L-HD	テレデザイン・レクロイ社	公募提案
食品・化学部	小型凍結真空乾燥装置	FDL-1000	東京理化学器械(株)	国補
地域資源部	木材含水率非破壊検査システム	MT-900 他	(株)ケツト科学研究所 他	国補
シラス研究開発室	供試体端面仕上機	CMT-005 D3	マルタニ試工(株)	国補

国 補：電源立地地域対策交付金により購入したもの

JKA補：JKA補助金（(公財)JKAからの交付）により購入したもの

公募提案：研究開発型補助事業などで購入したもの

